

# 親潮

北水同窓会誌

2015  
306  
No.2

第306号  
平成27年度 第2号

OYASHIO

ホームページをリニューアルしました  
<http://hokusui.net>



北海道大学大学院  
水産科学研究院  
水産科学院

北海道大学水産学部

特集 北水の今

## 水産科学研究院・管理研究棟の竣工

私の大学入学時に完成し、丁度定年までを共にした旧管理研究棟

総会案内 会員の受賞 追悼 各種行事開催報告 クラス会報告 寄稿 ほか

北水同窓会誌  
306  
No.2

# 親潮

第306号  
平成27年度 第2号  
OYASHIO

## CONTENTS

第96回(2016年)北水同窓会定期総会 開催案内	3
<b>特集 北水の今</b>	
<b>水産科学研究院・管理研究棟の竣工</b>	4
宇治 利樹(平18生)／美野 さやか(平22増生)	
<b>私の大学入学時に完成し、丁度定年までを共にした旧管理研究棟</b>	7
高橋 是太郎(昭50食)	
<b>会員の受賞</b>	9
山内 皓平氏(昭44ソ)／吉水 守氏(昭47食)／西村 一彦氏(平2化)／井上 昌氏(平5化)	
<b>追悼</b>	12
濱田 啓吉氏(昭19ソ)／西山 作蔵氏(特別)／小笠原 敏雄氏(昭22卒)／池龜 啓太氏(平21資)	
<b>北海道大学ホームカミングデー 2015</b>	
<b>水産学部卒業生のつどい</b>	16
都木 翠彰(昭59ソ)	
<b>支部会・クラス会報告</b>	17
第20回 臥洋会(昭和36年卒同窓会)開催報告 平成27年度北水同窓会茨城支部同窓会総会 北水マンドリンクラブ「北水楽友会」総会 大谷清隆先生との想い出の会 北水同窓会広島県支部会'15 報告	
<b>寄稿</b>	21
苗村 隆(昭38ギ)／山口 皓(昭44工)	
<b>学位取得者</b>	25
<b>会員の異動</b>	25
<b>会員死亡通知</b>	26
<b>親潮投稿規定・編集後記</b>	26



第96回(2016年)北水同窓会定期総会

開催案内

[東京にて開催!]

ようやく春めいて参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
第96回北水同窓会定期総会を下記の通り東京にて開催いたします。  
青葉香る北国の最もさわやかな季節にお集まりいただき、  
この機会に同期会を開催されはいかがですか。  
多数の同窓のご出席をお待ちしております!

日 時 ● 2016年5月27日(金)

H28東京支部総会は第96回定期総会と同会場で実施

会 場 ● コートヤード・マリオット

銀座東武ホテル 2階 桜の間

〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-10

Tel:03-3546-0111

受 付 ● 17:30~

総 会 ● 18:00~21:00

18:00~ 北水同窓会定期総会

18:45~ 東京支部総会

19:00~ 懇親会

総会費 ● 7,000円

新入会員は学部卒業より4年間無料(学部卒年度、平28~平25)

学部卒年度、平24~平10及び昭42~昭38は5,500円

学部卒年度、昭37以前 3,500円、女性は卒年度に関わらず 3,500円(同伴の奥様も)

※会費は5月27日(金)当日の会場でのみの受付となります。

### アクセス [交通機関ご利用の場合]

- 地下鉄(日比谷線、浅草線)東銀座駅 A1またはA4出口より徒歩3分
- 地下鉄(丸ノ内線、銀座線)銀座駅 A3 出口より徒歩3分
- JR 新橋駅より徒歩 8分

### 会場地図



お申込み先 参加ご希望の方は下の参加申込書にご記入の上、4月28日(木)必着で下記へFAXまたは郵送にてお申し込みください。  
また、参加申込書に記載の事項を、E-mail <kamatani@yamasa.com>にてご連絡頂いてもかまいません。

1)郵送の場合の送り先

〒 351-0022 埼玉県 朝霞市 東弁財 1-1-10-1401

浜谷 一郎 宛

2)FAX 及び メール の場合の送り先

ヤマサ醤油(株) 釜谷 明 宛

FAX 03-3661-8265 メール kamatani@yamasa.com

お問い合わせ先

電話 080-6062-9386 東京支部 幹事長 浜谷 一郎(昭51)

FAX、メール 上記に同じ

東京支部 監事 釜谷 明(平3食)

FAXまたは郵送でお申し込みの場合は、このページをコピーして送信用紙としてお使いください。  
キリトリ線 -> 8 -> キリトリ線 ->

**(ヤマサ醤油(株)北水同窓会東京支部監事 釜谷 明 宛)**

**FAX 送付先 03-3661-8265**

### 第96回 北水同窓会 定期総会 参加申込書 申し込み締め切り 平成28年4月28日(木)

参考者情報記入欄(同伴者につきましては、下の通信欄に懇親会参加の有無とともにご記入願います)

ふりがな	卒業年次	学科
お名前	明・大・昭・平	年

ご住所 〒( - - )

電話 ( ) FAX ( )

E-mail:

参加申込欄 下記の□に✓をお願いします

北水同窓会定期総会

東京支部総会

懇親会

通信欄

# 水産科学研究院・管理研究棟の竣工

宇治 利樹(平18生) / 美野 さやか(平22増生)

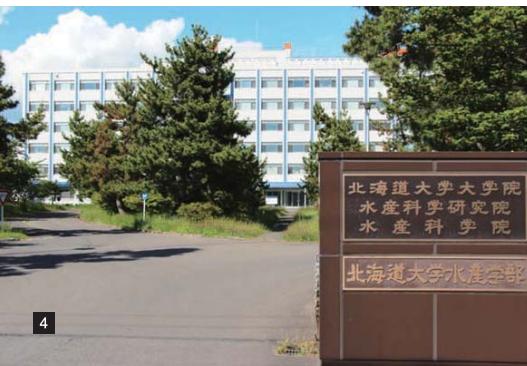


■新管理研究棟の外観

この度、北海道大学大学院水産科学研究院の主要な教育研究の場である管理研究棟が全面改修されました。改修事が決定してから準備に11か月、工事に1年3か月を要し、昨年竣工しました。前号の親潮でお知らせしたとおり、昨年7月には、三上 隆(北海道大学理事副学長)を迎え、管理研究棟正面玄関前において竣工式が執り行われました。以下に新しい管理研究棟の概要や移転時の様子を紹介いたします。

## 歴史と沿革

管理研究棟の歴史は、昭和10年に本学部の前身である函館高等水産学校の校舎として設置されたことに始まります。昭和46年に現在の場所に新築整備され、平成6年には外壁の修繕工事が行われました。平成24



北海道大学大学院  
水産科学研究院  
水産科学院  
北海道大学水産学部



■積雪の中での作業



■左側が改修前、右側が改修後の外観

年には、東日本大震災の教訓から本研究院と函館市で「津波における避難ビルとしての使用に関する協定」が締結され、これにより管理研究棟は、津波からの避難が特に困難と想定される区域において、やむを得ず適用される緊急的および一時的な避難施設としての役割も担うようになっています。新しい管理研究棟における避難スペースは、3階以上の共用部分が想定されており、学生や教職員等の一時避難者200名を想定して水・パン等の食料や毛布・マット等の防災用品が備蓄されています。

## 新しい管理研究棟

管理研究棟の竣工に先立ち、北海道大学水産学部附属練習船である「おしょろ丸V世」が新たに設計・建造されており、新しい管理研究棟の外観には「おしょろ丸V世」の意匠が取り入れられています。管理研究棟の塔屋の外壁には、おしょろ丸の煙突同様にオレンジ色のラインがあしらわれています。建物内部は、津波による被害を想定し、以前は地下にあった電気室が3階に設置され、屋上には停電に備え自家発電設備が設けられています。ボイラーの燃料を重油からガスに変更したこと、災害時の迅速な復旧を助けています。さらに、研究室の配置に関しても、分析機器類を保有する研究室が

上層階に集約され、津波による被害を最小限に抑える工夫がなされています。各研究室においては、工事前に各階ごとのレイアウトを教員側から提案できため、効率的な機器配置が可能となり、スペースの共有化が進みました。さらに、助教を含む各教員に専用スペースが均等に割り与えられ、若手教員も独立した研究者として早期に自立できる環境が整備されました。

各階における共通の改善点として、学生の安全を考慮して学生室と実験室が分離されたことと、共用スペースの拡充が挙げられます。各階に共用ゼミ室が設けられ、研究室のゼミ演習や打ち合わせが以前よりも簡便に行えるようになりました。さらに、共同実験室が各階ごとに設置され、共用の低温室や、遺伝子組換え実験等の特殊な実験を行うための共用特殊実験室なども設けられました。上記の改善点に加えて、白を基調とした室内配色により、以前よりも明るい空間になりました。共用部分の蛍光灯は自動的に点灯・消灯する設計であり、節電にも配慮されています。各部屋には空調設備が整備され、改修以前には冬季に恒例であった暖房運転時の「カンカンカンカン」というハンマー音が無くなりました。

た。以前は、土日や夜には構内共通暖房が止められていましたが、現在はいつでも暖房を使うことができます。各研究室に温水を利用できる流し台が設置されたことにより、冬季の過酷な器具洗浄から解放されたことも、研究生活における大きな改善点です。改修前にみられた配管の老朽化による水詰まりやサビ水も改善されています。また各階に設置された緊急用洗眼器と緊急用シャワーも新しくなり、万が一の有害物質による事故にも迅速に対応できる配慮がなされています。

加えて、他研究室の学生と同居する共用生室や、リフレッシュルームの設置により、他研究室の学生と接する機会が増え、研究室間の交流が増えてきました。これらにより、各々の専門分野だけではなく、水産分野における幅広い知識と視野を修得した人材の輩出が期待されます。教員間の交流も進むことで、共同研究の創出が推進され、様々な分野の研究者が集積する本研究院の特徴を生かした研究の展開が期待されます。既に本研究院においては、地域イノベーションクラスター事業(函館マリンバイオクラスター)の成果に見られるように、複数の研究室が連携してプロジェクトを推進しています。



廊下:白を基調とした明るい配色



リフレッシュルーム:学生、教員共に使用可能



コピー室:打ち合わせにも使用できる



フリーザー室:各研究室のものを集約

6階 平面図	教員 専用ラボ 602	共用院生室 603	男子WC	階段	リフレッシュルーム EV EV	共用ゼミ室 604	共用特殊実験室 605	共用 部屋 606	7階 平面図	教員 専用ラボ 608	教員 専用ラボ 609
	防災 備蓄 倉庫 610	専用ラボ 612	専用ラボ 613	教員	共用 院生室 614	共用ラボ 615	専用ラボ 616	専用ラボ 617		専用ラボ 620	専用ラボ 621
	教員 専用ラボ 611	教員	教員			教員	教員	教員		教員	教員



共用特殊実験室:多様な研究機器を設置 専用ラボ:培養や分析がしやすい機器配置 専用ラボ:分子生物学的研究に適した機器の設置 共用院生室:学生の居室、エアコン完備



■移転作業中の廊下



■研究室移転

研究室の仮移転先の確保が困難であったため、改修工事は東西に三つの工区に分けて行われました。まず第一工区の研究室を移転させ、工事終了後に予定入居者が移転し、次の工区に移るという作業を繰り返しました。研究室の移転には、相当の準備が必要でした。ここで移転の様子について、旧微生物研究室を例に簡単に紹介いたします。本研究室は4階第三工区から6階第二工区に場所を移しました。2014年12月中旬の移転作業に向けた荷造りはもちろん、多数の試料や試薬を保管するプレハブ型の大型冷蔵庫の整理・移動は、多くの時間を要する作業でした。移転直前の三日間は、研究室総出で備品の梱包などを行い、三日間の移転作業のうちに順次荷解きと機器の設置を行いました。荷造り中には先輩方が残された品々を目にすることも多く、研究室

の長い歴史を感じるひと時でもありました。大型機器は、管理研究棟に横付けされたクレーンを用いて運搬しました。移転準備期間は、機器梱包のため実験を中断せざるを得ませんでしたが、卒業論文や修士論文の提出を控えた学生を含め、昼夜問わずに準備前の限られた時



■格納されていた安全キャビネットを取り出すため切り抜かれたユニット

間を実験に充てていたように思います。備品を梱包し移転先へ運搬するには多くの時間と人力を要しましたが、もぬけの殻となった研究室の解体作業に時間はかかりませんでした。重厚感のある木製の実験台が解体され、大型機器を格納していた部屋の壁が切り抜かれ、在りし日の面影を失う様子に、少し寂しさを憶えました。余談ですが、移転後もしばらくはエレベーターが使用できず、6階まで階段で上り下りしたこと、ひとつの苦労話として記しておきます。

### ■北水の活性化に向けて

管理研究棟の改修に先駆けて、講義棟も平成25年度に全面改修されています。親潮298号と304号に紹介されたように、函館キャンパス内の先端環境制御実験棟と北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所も新築されています。これら一連の改修・建築によって、函館キャンパスに活気が増し、快適な環境で教育研究に打ち込めるようになりました。私たちは2015年に着任したばかりではありますが、本研究院の歴史を受け継ぎ、新しくなった管理研究棟とともに新たな歴史を刻んでいきたいと思います。水産科学のさらなる発展、国際交流、函館や北海道の活性化を通じて社会に貢献できるよう尽力していきます。

改修後の管理研究棟の写真を、北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)のギャラリーで公開しています。改修により研究室の所属階に変更が生じている場合がありますので、お越しの際は守衛室もしくは事前にホームページにてご確認ください。新しく生まれ変わった管理研究棟へのご訪問を、心よりお待ちしております。



■低温室室内

## 私の大学入学時に完成し、丁度定年までを共にした旧管理研究棟

高橋 是太郎(昭50食)



受験案内の記事だったのか、あるいは入学時の案内冊子の中だったのかは記憶が定かではありませんが、当時(昭和40年代半ば)新築間もない管理研究棟の写真が掲載され、そこには「水産学部のデラックス校舎」と銘打たれていました。本当にデラックスかどうかは賛否両論があると思います。何れに致しましても、当時も今も、港町地区には水産学部の管理研究棟に匹敵するほどの大きさのビルはなく、その外観は相対的に圧巻でした。管理研究棟は、かつては砂浜だった地盤の上に建てられたにも拘わらず、昨今話題になっているくい打ちの不正はなかったよう、昭和58年の南西沖地震や、平成23年の東日本大震災などの巨大地震にも全くピクともしない強度を示し、「デラックス」の名に恥じないものであることを証明しました。特に、理系の学部であるがゆえに、重量物がびっしり詰まっていたことを思うと、その強度はかなりのものであったと申せます。しかしその反面、外壁の錆の進行の速さには、「この建物は本当に大丈夫か?こんなものが『デラックス』と呼べるのか?」と思ったのも事実です。海の潮風をろに前面で受けるように建っていたことから、非常階段は異常に腐食し、朽ち落ちそうになって、何度も修理を受けました。最外壁の鉄板は、容易にかさぶたのようにはがれ落ち、学生が面白がって次々とはがしているのを恩師の先生が見て、「やめろ!」と注意したこともあります。その先生の部屋は、丁度建物端の非常階段出口のところにあったことから、普段から錆

の進行を目の当たりにしておられたようで、非常口から非常階段に出るところの足元に開いた錆によってできた隙間が気になっていた様子でした。ある日先生が1メートルのものさしをその隙間にさす場面に私も居合わせ、「先生、その長さはいくら何でも大きさでしょ」と思って見ていたところ、すっぽりと入ってしまったことに仰天致した次第です。

一方、こんなこともあります。排水管の流れが悪くなり、營繩係を通じて業者にきてもらって、作業が完了したときに業者からいわれたことばにびっくり。曰く「完全に汚れを取ろうとすると、管壁が破れてしまうので、ほどほどで止めておきました」。まるで動脈硬化が進行しつつも辛うじて延命している老人がまさにこの管理研究棟の状態なのだと思いつらされた次第です。

斯様に、改修直前は、管理研究棟が限界に近いほど老朽化していることをそこここで認識させておりました。思えば、前の管理研究棟は私が大学生になった時に完成したばかり。そして私の63歳定年の年に丁度全面改修になったので、私の学生時代から定年まで水産学部で過ごした日々がびたりと旧管理研究棟のライフスパンと一致致します。そして今、全面改修を経て全く新しく生まれ変わった真新しい管理研究棟で、特任教授として残りの2年間過ごすことになりました。私自身はますます老朽化するのですが、全面改修を終えてまるで学生時代に戻ったように若返った管理研究棟が羨ましい限りです。

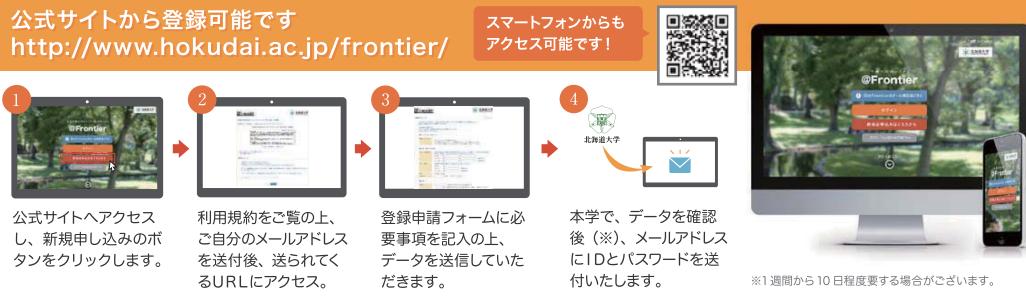
# 卒業生登録システム《@Frontier》にご登録ください。



hokudai.ac.jpドメインのメールアドレスは、北大卒業生の証。  
PC・ケータイ・スマートフォンから、メールをはじめとする各種サービスが利用可能です。  
**北大を卒業しても、  
@Frontierで他の卒業生や北大とつながりましょう!**

- 利用資格は北大卒業生。  
利用料は無料。**
- 生涯にわたり  
メールサービスが利用可能!**
- オンライン上で  
会員検索ができる!**
- 「私書箱」機能も利用可能!**

公式サイトから登録可能です  
<http://www.hokudai.ac.jp/frontier/>



北大との絆をつなぐ一枚

北海道大学カードが北大生を支援する仕組み

北海道大学カードへの入会による取次手数料及びカード利用額に応じた携手料がカード発行元の北海道大学連合窓口に還元され、これを「北大学生支援資金」として北海道大学に寄附し、「奨学金」、「留学支援金」、「課外活動への費用援助」等に役立ててもらうこととしています。

本学卒業生、教職員又は※在学生父母の方限定

※UCカードのみ

**北海道大学カード**

申込み

UCカード専用ページから申込む

三井住友専用ページから申込む

北大事務局から申込む

専用申し込み用紙を送付いたしますので、下記宛にお名前・ご住所をお知らせください。  
カードは、お申し込みから約1ヶ月後に、カード会社からお宅にお届けします。

<https://www2.uccard.co.jp/card/lineup/hokudai.html>

<https://www.smbc-card.com/nycard/affiliate/hokudai/index.jsp>



**北海道大学**  
HOKKAIDO UNIVERSITY

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）  
電話：011-706-2012/2072 FAX：011-706-2092  
E-mail : kouhou2@jimu.hokudai.ac.jp

## 会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 山内 照平 氏(昭44ゾ) 瑞宝中授章受章

足立 伸次(昭55ゾ)

本学名誉教授（元大  
学院水産科学研究院  
長、現愛媛大学特命教  
授）、山内照平氏は水産  
増殖学に関する優れた  
業績と学術の発展に寄  
与された功績により、  
昨年秋の叙勲において  
瑞宝中授章を受章され  
ました。平成15年の紫綬褒章に続く受章で、大変  
名誉なことです。



進歩賞や日本農学賞などを受賞されています。平成15年には紫綬褒章を賜る栄誉に浴し、その後も秋山財團賞、日本水産学会功績賞、日本水産増殖学会賞をそれぞれ受賞されています。地域社会活動としては、北海道大学在職中には、農林水産技術会議専門委員、大学評議・学位授与機構学位審査会専門委員、水産庁水産政策審議会委員、北海道水産業漁村振興審議会委員、海洋科学創世研究会顧問、日本学術振興会21世紀COEプログラム委員会分野別審査・評議会専門委員及び独立行政法人水産総合研究センター機関評議会議外部委員等を、愛媛大学転任後は公益社団法人全日本地域研究交流協会評議員、日本学術会議連携会員、岩手大学三陸復興推進機構客員教授を歴任され、現在も水産学分野の振興と発展に大いに尽力されています。今回の受章は研究室一同と卒業生にとっても誠に嬉しいことであり、山内先生の益々のご活躍を期待しています。

CONGRATULATIONS ON WINNING

### 吉水 守 氏(昭47食) 平成27年度北海道科学技術賞受賞

笠井 久会(平12資)

吉水 守氏は、「魚  
介類の疾病防除対策に  
よる生産の安定化と漁  
獲物の安全性確保に關  
する研究」に関する一  
連の研究が評価され、  
平成27年度北海道科学  
技術賞を受賞されました。



同氏は、これまで一貫して水圈微生物、特に魚  
類ウイルスと水棲細菌の研究に取り組み、1971年

# 会員の受賞

にわが国で初めて発生したサケ科魚類の伝染性造血器壞死症および1973年に発生した細菌性腎臓病の防疫対策に関する研究をはじめ、1976年から始めた疫学調査で見つかった魚類で最初の発癌性を有するヘルペスウイルス：*Oncorhynchus masou virus*、サケのレオウイルス：*chum salmon virus*、旋回病原因レトロウイルスおよび海産魚、特にヒラメに大きな被害を与えたヒラメラブドウイルスなど、魚類ウイルスの病原性や感染機構、宿主の感染防御機構等の基礎的研究を行いました。防疫対策として採卵親魚の検査法と健廉親魚の選別法、洗卵と卵消毒による垂直感染の防止法、飼育用水・排水および施設の消毒法などを開発するとともに、迅速・正確な検査法の確立、魚類の健康管理への抗体検出の導入、ワクチンおよびその注射装置の開発などを行い、本道のさけ・ます増殖および海産魚介類の栽培漁業の安定化に貢献しています。これらの防除対策に関する研究は、学術的な評価に留まらず水産増殖現場での仔稚魚の大量死防止に大きく貢献し、本道でのサケ・マス稚魚の放流、マツカワの100万尾放流をはじめヒラメ、ニシン、ハナサキガニ等の放流にも寄与するところが大きいと高く評価されています。

さらに同氏は増養殖産物としての水産物の安全性確保に関する研究を行い、本道の水産物の高度衛生品質管理方法に関し地域全体での衛生管理システムの導入を推進し、我が国の衛生管理型漁港のあり方の基礎となる知見を示すとともに、その普及に尽力してこられました。これらの成果は我が国の漁港および产地市場の衛生管理、さらには水産物の輸出拡大に貢献しています。

このように、吉水 守氏の研究は、魚介類の疾病防除対策による生産の安定化と漁獲物の安全性確保に大きく貢献しました。わが国の魚類ウイルス研究の牽引と同時に、北海道をはじめ日本各地の水産業の振興にも尽力され、水産学への貢献は極めて大きいものがあります。

## CONGRATULATIONS ON WINNING 西村 一彦 氏(平2化) 2014年度北海道分析化学賞受賞 板橋 豊(昭50化)

西村一彦氏(平2化)は、「蛍光誘導体試薬を用いた脂肪酸の高感度分析法に関する研究」が評価され、2014年度北海道分析化学賞を受賞されました。

西村氏は、平成2年北海道大学水産学部水産化学科魚油化学講座を卒業後、引き続いて同大学院に進学、修士課程修了後は北海道立衛生研究所に奉職され、平成26年より同研究所食品科学部食品保健グループ主幹として現在に至っています。この間、同氏は水産科学研究院博士後期課程に入学して研鑽を積まれ、平成16年に博士(水産科学)の学位を取得しました。

西村氏はこれまで、畜水産食品中に残留する動物用医薬品、有機塩素系農薬、重金属などに関する分析法の開発や調査・研究に従事し、多くの研究成果を上げてきましたが、今回の受賞は、先端の分析化学的手法を行政における試験検査業務に積極的に活用したことが高く評価されたものです。授賞式と受賞記念講演は北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催された化学系学協会北海道支部2015年冬季研究発表会(1月27日、28日)において行われました。講演は「試験・検査業務を研究へ繋いでくれた分析化学」と題し、試験・検査業務における基礎研究の大切さを身近な事例をあげて分かりやすく解説され、専門を異にする人たちも感銘を与えました。西村氏の研究成果は、食品行政に大きく貢献するもので、今後の一層の発展が期待されます。

## CONGRATULATIONS ON WINNING 井上 晶 氏(平5化) 平成27年度北海道科学技術 奨励賞受賞 尾島 孝男(昭54化)

井上 晶氏(平5化)が平成27年度北海道科学技術奨励賞(知事表彰)を受賞されました。受賞功績は、「高機能アルギン酸分解酵素生産法の開発とコンブ類の種および原産国判別技術への応用」です。本賞は、北海道の発展に寄与する科学技術上の優れた発明、研究等を行い、今後の活躍が期待される研究者を対象として平成25年度より創設されたもので、井上氏の受賞は水産分野で初となります。



井上氏は、平成5年に水産学部博士後期課程を修了し学位取得後、日本学術振興会特別研究員(PD)、米国マサチューセッツ大学医学学校ポストドクタルフェロー、大阪大学大学院生命機能研究科研究員などを経て、平成17年より水産科学研究院助教授(現准教授)として採用されました。赴任後は、海洋

生物がもつ多糖類分解酵素の探索・機能解析とそれらを用いてコンブなど大型褐藻類の細胞工学技術への応用に関する研究を進めてきました。その過程で、新種のラバボバクテリア属細菌から発見したアルギン酸分解酵素が既存の同酵素と比較して最高クラスの分解能をもつことを明らかにし、その大量生産法も確立しました。本酵素は、2015年10月より(株)ニッポンジーンより「HULKアルギン酸分解酵素」の名称で販売が開始されております。さらに、北海道立工業技術センターおよび食品加工研究センターとの共同研究により、本酵素を利用してこれまでに困難であったコンブ類からの効率的なDNA抽出法を開発し、遺伝子情報に基づくコンブ類の種判別技術とマコンブの原産国判別技術を確立し、これら一連の研究が高く評価されました。

アルギン酸の酵素分解によって生じるオリゴ糖は、ヒトの腸内細菌叢の改善作用、血圧降下作用、植物毛根の生長促進作用などのさまざまな生理作用をもつことが明らかにされつつあり、近年注目されている物質です。今後、上記の酵素に加え井上氏が精力的に研究を展開している他のアルギン酸分解酵素や代謝酵素を使用することにより、アルギン酸の高付加価値化や有用物質への変換技術が開発されるものと期待しております。ここに心から受賞をお祝い申し上げますとともに、今後の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。

**函館竹田**

**株式会社**  
**竹田食品**

代表取締役 竹田寿広

**食卓に函館の味を**

HACCP

本社工場 函館市浅野町3番10号  
TEL (0138) 43-1110 (代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産保冷配達センター3F)  
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売㈱ 東京都中央区築地7丁目5番3号(経文第一ビル2階)  
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 545-2135

竹田食品販売㈱ 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)  
TEL (022) 772-1970 FAX (022) 772-1987

竹田食品販売㈱ 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)  
TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358

# 追悼寄稿

## 在りし日の濱田啓吉先生(昭19才)を偲ぶ

荒井 克俊(昭51才)

本学名誉教授 農学博士 濱田啓吉先生が本年1月5日に安らかな眠りにつかれた。享年92歳であった。ご家族だけでの葬儀との遺族のご意向ではあったが、ご子息に連絡をとり、1月7日午後6時より日本キリスト教団函館千歳教会における前夜式に参列した。そして、目を閉じ、教会に響く讃美歌を聞きながら、先生の在りし日の姿に思いをはせた。

濱田先生には、水産増殖学科2年生の組織学(板書されたウカギリ塩類細胞の図は見事)、3年生の動物発生学の難解な講義(底本はConclin著のナメクジウオ発生ほか)を受け、4年生から発生学遺伝学講座(当時)門下となり、卒業論文、修士論文、さらに博士論文までお世話になった。先生は召集を受けた海軍航空隊(昭和20年海軍少尉)より復員後、北大農学部(昭和24年卒)を経て、農学部、そして水産学部の教員を37年の長きにわたり務められ、その功績に対し勲三等旭日綬章を授与された。この間、ワカサギ研究より、形態を手掛かりに種を分ける従来の考え方、生活史分岐を基盤とする考えを導入し、種分化研究に大きな影響を与えた。さらに、発生学研究においても、脊椎動物の発生に関する教科書(中山書店)において魚類(サケ科)の初期発生に関する章を分担執筆したばかりか、当時情報がほとんど得られなかった旧ソビエト連邦・東欧圏において深化され



在りし日の濱田啓吉先生(2014年) 前列左より片岡辰三、渡辺憲一、濱田先生、筆者、宝多森夫(写真撮影) 後列、恒子令夫人

た魚類の個体発生における分岐と適応、発育段階(エタップ)などの研究成果についての成書や論文をロシア語から翻訳・紹介された。研究室にはこのような考えに賛同(あるいは反対)する多くの学生、大学院生が集まり、自由闊達な雰囲気の中、優れた研究者、教育者、行政官、企業人が育っていった。豪放磊落で誠実実直な人柄は多くの学生に慕われ、我々のやや下の世代からは「ハマンダ」というニックネームを奉られていた。

濱田先生は、愛煙家で、お酒が大好きであった。大学院生のときは、夕方になると実験室に来られて、組織切片を作る私の後ろで、「おい、荒井君、喉渴かないか。」と声をかけられた。「すみません、ちょっと今、手が離せません。」と答えると、残念そうに教授室に引き上げられるのであるが、30分もたたないうちにまた、実験室に現れ、「おい喉が渴かないか。」ともっと大きな声でお酒を誘われた。大体、これで決着がつき、万代町あたりの飲み屋で、随分お付き合いをした。その時の話は、「新種記載したイシカリワカサギ *Hypomesus sakhalinus* Hamadaが実は、*H. olidus* Pallasと同種で、国内でワカサギとして知られていた魚こそ新種で、McAlisterにより*H. nippensis* と記載されてしまった。」という失敗談であり、この時は何時も大変悔しそうであった。二年ほど前、昭和50年度に卒業研究を一緒にした同期4人でご自宅に押し掛けた(写真)。その前年に、「お菓子」をお土産にして訪問した私は、たいそう叱責されたため、今回は「高級ウイスキー」を持参したところ、すぐに

封を切られて、ストレートで飲み始められた。その時は、「お前そんなに大酒ばかり呑んでいると、早死にするぞ。」と随分言われたが、俺に言った奴がみんな先に死んじました。」と得意そうに話された。

濱田先生と一緒にお酒を飲む機会はどうとう失われてしまった。先生からは学ばせてもらった多くのことを、出来る限り次の世代に伝えていきたい。長い間、どうもありがとうございました。

# 追悼寄稿

## 三浦 汀介(昭45才)

北海道大学元教授西山作蔵先生は、平成27年3月12日午後8時11分に函館中央病院にて、享年90歳(満89歳)で、ご逝去されました。1年ほど前、脳梗塞の疑いで入院され、その際、腎機能の低下が見つかり、通院治療を続けてまいりましたが、平成27年3月に肺水腫が原因でお亡くなりになりました。



西山先生は、昭和22年3月函館水産専門学校漁業科を卒業後、昭和23年3月函館水産専門学校に文部教官として採用され、昭和26年3月北海道大学水産学部助手に、昭和32年3月同大学水産学部講師に、昭和42年10月同助教授に、昭和60年6月同教授に昇任され、漁業学科漁具漁法講座を担当されたのち、平成元年4月には北海道大学を停年により退官しております。

北海道大学水産学部在任中は、長年にわたって沿岸における大型定置網漁業、ならびに、中層トロール漁法に関する教育、研究に従事され、昭和60年3月『中層トロール漁法に関する基礎的研究』をまとめ、北海道大学から水産学博士の学位が授与されました。また、ライフワークの定置網漁業に関する研究では、定置網の手引き(1971)、定置網資材の基礎知識(1975)、定置網漁業者手帳(1988)を筆頭に、多くの教科書や参考書が刊行されております。

教育面では、包容力に溢れた先生の人間性に惹かれて、多くの学生達が先生の研究室の門をたたきました。彼らは、学生生活を通じて、知識のみならず精神的な豊かさを身につけることができ、卒業後は、それぞれの分野において活躍しております。

社会貢献の面では、昭和54年から水産業改良普及職員特別研修の講師をされ、退職するまで多くの研

修プログラムを行ってきました。このプログラムにおいて、普及員は、およそ半年の期間指導を受け、それぞの現場にもどった後に、再教育で習得した技術や知識を現場で活かすことになります。西山研究室で学んだ経験は、彼らにとって仕事を進める上で大きな自信となったものと思われます。沿岸漁業の現場で必要とされている技術や知識を、直接、普及員に伝える仕事は、大学の社会貢献の機能として大変重要であると考えます。

大学・学部の管理運営面においては、昭和62年から昭和64年3月まで北海道大学評議員を併任され、本学および学部の管理運営に尽力されました。

先生のご活躍された時代は、ともすれば業績主義の時代であります。そのため実社会で役に立ちそうもない研究もあったような気がします。そんな時代に、先生は、研究の成果をきちんと社会実装する視点をもって仕事を進められた、数少ない存在でした。地方創生が叫ばれる今日の状況を考えると、北海道の漁業振興における先生の功績は大変大きなものがありました。

ここに、謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。

## 人生の達人 小笠原敏雄君(昭22才)を思う

市川 渡(昭22才)

平成27年9月19日、小笠原敏雄君死去。享年90歳、天寿を全うした見事な人生であった。彼の一生を一言で言うと「人生の達人」がそのまま当て嵌まる。昭和19年4月、根雪の残る函館の母校で相会って71年、変わぬ友情を続けたことを誇りにし、感謝している。小笠原君は色白で背が高く、体格も立派で運動神経も抜群、水泳、マラソンが得意だった。そぶりにも見せなかつたが頭脳明晰、不確かで情緒的な記憶より記録を大切にした。

敗戦間近か迄での3ヶ月間余、私達クラスは今の北方四島、千島の国後島と歯舞諸島の志発島に別れ

# 追悼寄稿

て、実習という勤労奉仕。作業はタラバガニの刺網漁業、労働はキツかった。これは北晨寮の全寮生活と併せて、私達の絆を一層強めるものとなった。卒業後は食料増産、外貨獲得の時代。彼は北洋漁業、私は南方のマグロの実務と別れ、奪闘努力であった。

お互い級友が会えば話は千島のこととなる。平成になってから小笠原君が、あれは苛酷な勤労奉仕であったが、指導教官から各人がテーマを定めての調査報告を求め、その事実が残ってると、私も彼の自宅で確認した。誰もがそんなこと記憶にないと言ったが、彼自身が参加した志発島の物を級友の分と共に集約整理して原文通り発刊。級友全員、未亡人、教官など関係者に配布した。皆、ビックリ、驚き、感嘆感激、大喜びだった。内容も高く評価された。しかし、文章は旧式で文語調、昔式の漢字、假名遣いだ。句読点が極端に少なく読みづらい。ワープロで字を探し更に図書館。手を入れたのは句読点らしき部分だけ、半画空け読み易くした。記憶より記憶である。

その小笠原君が自分史として「蟹の一生」と題して五輯に分けて発刊している。彼が生まれてこの方、80歳半ば迄でのものだが、学生時代、カニ漁船への乗船、勤務した会社での華やかなカニ船団長時代は、彼の人生で強烈、忘れられないもので、それに因んで命名したと言う。私も2、3、4輯の寄贈を受け1、5輯は先祖代々の墓誌伝と年表、家族のものと言う。

「カニの一生」には彼の個人的な趣味、余技、道楽？が記述されどれもが一流、達人だ。サラリーマンと言えば麻雀にゴルフ。麻雀は30～40代は勝率70%と豪語してたが、結局はトントン。ゴルフは25年以上俱楽部に入り、全成績が克明に整理されている。記録も保存も大切なこと。囲碁は学生時代、手ほどきを受けたことがある。後年、日本棋院の特訓コースで3段、アマチュアでは「オット」と言う、高段者の存在。私も遅れて教室を紹介されてお勉強。後、何目か置いての対局。結局、彼の成績表に組込んで勝率アップに貢献。

何かを止めれば何かを始める、自己追求型で楽しみと上達を求めた。盆栽もあった。見事なサツキを頂戴したが、結局、我が家では地面、それでも時季に

は立派な花を咲かせ、小笠原君が話題になる。自宅付近には谷津干潟があり、お供して野鳥観察。当然、「日本野鳥の会」の会員。最終的には書道がある。元々達筆家だったが書道教室に入門、素質十分な上での精進、そして師範。展覧会に出品すれば特選、特別賞、で無審査会員。書道会では一流のトップクラス。詩吟。テン刻もやった。小笠原君の多芸。多才を奥義に感嘆したものだ。更に言えば切手、これは趣味と実益を兼ねたもので見事にヒット。病中、高額で引き取る専門家がおり、思わず奥さん孝行になった。

そんな小笠原君、人に譲らぬ厳しいものがあった。卑怯、狡いこと、不正を憎んで、それを糾したと言う。そんなことが彼の更なる昇進を妨げたと、私の勝手な推測と独断である。それでも会社のOB会長を努めた。本来は社長、副社長級の役目。彼の会社での地位より、資質、人望、魅力がそうさせた。学校の同窓会長と並ぶ最高の名誉職である。ちょっとやそこらの人物ではない、「人生の達人」の所以である。

そんな彼と「俺、お前」、夫婦共々の交友だった。気の合った仲間と旅行や会合、奥さんの明るい社交性で楽しげ一杯。囲碁やクリニックでの診察など晩年の大切な年代を過ごした。東日本大震災当時の交通の不便から会う機会が少くなり、お互い人生の終末期が近くなる。前々から何かあつたら駆けけると言ったが、私も超後期高齢者の仲間、生来の「足痛」で約束が守れなかった。「スマン」の一言である。

## 池亀啓太さん(平21資)弔文

小野山 一輝(平21資)

平成27年7月29日池亀啓太君(平21資)が29歳という短い生涯を閉じられました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

同級の友人から池亀



君の突然の訃報を伝え聞いたのは会社からの帰路の途中のことでした。生前から非常に親交の深かった友人のあまりに突然過ぎる訃報に、悲しみよりも明け暮れていたことを思い出します。言葉にできないほどの深い悲しみと胸が張り裂けそうな思いから抜け出すことはできませんでしたが、その後の通夜、葬儀に参列し池亀君の最期を見届けることができ、友人として最後の役目は果たせたと思っています。

池亀君は北海道登別市のご出身で、平成17年に北海道大学水産学部に入学されました。池亀君とは同じクラスに配属され出席番号も近かったこともあり自然と会話する機会も多く、大学に入学して最初に仲良くなった友人でした。翌18年に函館キャンパスに移行後、同学部海洋生物資源化学科食品科学コースに同じく進級し、更に4年生からは高橋は太郎先生の研究室への配属を希望したところ、そこでも配属が一緒となり、大学院修了までの6年間ずっと同じ時間を過ごしてきました。

忘れもしない大学4年生の夏、有機溶媒への引火が原因でラボが全焼するという大事件が起きました。今では笑って語れるようになりますが、当時の状況は壊滅的で、何もかもゼロから仕切り直ししなければならない事態に陥っていました。火災で焼き焦げたラボのリフォームに伴う大掃除から、実験器具類の洗浄や引っ越し作業等に時間を使やす毎日だったと記憶しています。まともに研究ができる環境の中で文句1つ言わず夜遅くまで精力的に片付けをしていたのが池亀君でした。そのような過酷な環境にも関わらず、水産リン脂質の悪液質緩和作用に関する研究という難度の高いテーマに挑戦していましたが、池亀君の持ち味である何事も諦めない根性と熱意によって、わずかな時間で興味深い成果を創出されました。同じ水産油脂の研究に携わっていた身として、日々刺激をもらいながら切磋琢磨し合える心から誇れる仲間であり、ライバルでした。

また、勉学以外の面では、仲間達と朝まで飲み明かしたり、温泉やボードやスキー旅行等々、遊びにも明け暮れていたことを思い出します。池亀君は非常に人情味溢れる人間で所謂「愛されキャラ」でした。常に先輩、同期、後輩に囲まれ、数々の名言、伝説やネタを提供してくれた為、彼の周りで笑いが絶えることはありませんでした。しかし、根は真面目で、二日酔いで昼過ぎまで寝ている我々とは異なり、朝からしっかりと勉学研究にも励んでいたあたりは流石の一言でした。

平成23年に大学院修了後、日清オイリオグループ㈱に入社され、学生時代に培った油脂関連のノウハウを活かし、ドレッシングの開発等に従事されていましたとお聞きしました。勤務先が同じ関東圏ということもあり、周辺に住む卒業生達で定期的に集まり近況を報告し合っていました。また、昨年6月には岡山に勤務する先輩に会うために、池亀君含めた友人3人で旅行もしており、「これからも一生付き合う腐れ縁だな」と笑いながら酒を酌み交わしていました。このようにお互い会えば大学時代のバカ話ばかり、月日は経っているのに昨日の出来事のように思い出しながら大笑いでいる、こんな話ができる貴重な仲間は一生大切にしなければならないと思っていた矢先の出来事でした。その翌月の8月には東京で我々のソウルフードであるジンギスカンを食す計画を立てていました。当時、仲間内でその会を中止しようとも考えていましたが、池亀君が「お前らなんでも中止してんだよ！俺なんか気にするなよ、空から飛んでいくからさ！」と言ってくれているような気がしてならなくて、開催することにしました。カメ(池亀君)の話もいっぱいしたよ、思い出話で盛り上がったよ。天国からその話を聞いて腹抱えて笑ってくれてたよね？

池亀君、これまで本当にありがとう。これからもずっと貴方のことを忘れません。いつかそっちに行った時には、思いっきり笑わせて下さい。どうか安らかにお眠り下さい。

## クラス会 報告

### 各種行事開催報告

#### 北海道大学ホームカミングデー2015 水産学部卒業生のつどい

都木 靖彰(昭59ゾ)

平成27年9月26日(土)に北海道大学百年記念会館大会議室において、「北海道大学ホームカミングデー2015 水産学部卒業生のつどい」がおこなわれました。講師として東京海洋大学教授・加藤秀弘先生(昭50ゾ)をお招きし、「鯨類が目指す二つの道」のタイトルで一般講演会が開催されました。講演会には同窓生と現役学部学生を含め約50名の方が来場されました。加藤先生は、ご自分がどのような経緯で鯨類研究の道に進んだのか、北大の学生時代から今に至るまでの経験を紹介することから講演をお始めになり、「第4のひれ(腹びれ)」を持つイルカ(はるか)を材料とした最新の鯨類進化に関する研究(腹びれは鯨類が進化の過程で失った後ろ脚だとのこと)などを多数の写真とともに



安井研究院長ご挨拶



横山北水同窓会長ご挨拶



ご講演中の加藤先生



講演に聞き入る参加者

#### 第20回 臥洋会 (昭和36年卒同期会)開催報告

角田 靖雄(昭36セ)

満山紅葉、絶好の行楽シーズンに久々懐かしい函館に集まつた。卒業後、半世紀は遙かに越えてしまい、かつての紅顔の美少年も大分年輪を重ねた風貌となっていた。今回は殆どの方が喜寿を迎え、その祝いを兼ねての集まりであったため、前回より3名増の25名の参加であった。

とき 2015年10月25日

ところ 函館湯の川温泉 ホテル万惣

集合時間は午後5時45分であったが、3時頃には、全員が顔を見せ始めた。それは我が臥洋会には厳守しなければならない約束事があったからである。つまり、一旦、アルコールが入った状態では温泉に入ることを硬く禁じているため、宴会前に一風呂浴びたい方々がホテルへ早期到着となるのであり、今では恒例となっている。

予定通り宴会場で集合写真を撮影し、定刻6時から世話を人代表して浅倉君(製造)から挨拶があり、司会進行は町田君(増殖)に引き継がれ、不肖私の乾杯の発声で開宴となった。久々の函館の御馳走に歓喜し美酒にほろ酔い気分で、話題に大いに花が咲いた。年齢のせいか病気と健康、それに運動に関する話題が多くなったようである。ワイワイやっているうちに早くも2時間が経過、恒例の歌の時間がきてしまった。

元応援団長の野村君(遠漁)の名音頭で「都ぞ弥生」、名口上で知られる和田君(遠漁)による「逍遙歌」を全員で高唱した。しかし、これで一層酔いが回った中、尾身君(増殖)の中締めで一次会を無事終了した。別室で二次会がありカラオケに興じた。この会が始まって以来、初めてのマイクの奪い合いがあり、会員の変貌ぶりをおおいに感じた。三次会では参加者が半減してしまったが、更

けゆく夜を惜しんで談笑し、23時頃、静かな就寝となつた。

さて、私たちの臥洋会は毎年、秋、開催されている。近々では「支笏湖丸駒温泉(2011)、八ヶ岳(2012)、大雪山旭岳温泉(2013)、伊豆熱川温泉(2014)」と観光地を巡り、5年振りの函館開催となつた。我が臥洋会がこのように盛況なのは万年世話人の石川君(製造)が健在であること。それに、助手の浅倉君、写真帳担当の尾身君などスタッフに恵まれたことにある。この会の他に「ミニ臥洋会」を年2回、東京で開催し、毎回、親交を温めている。なお、私たちが育った時代は一応、子供の時に戦争を経験、戦後の復興期を学生時代と新入社員で過ごし、そして高度成長期には中堅として良く働き、バブル崩壊も指揮官としてめげずに過ごしてきた仲間である。つまり、考えられる経済状態をすべて経験してきた「つわもの」たちといえる。それでも思いおこせば卒業時、将来の希望と共に不安一杯の門出であった事が思い出されるが、丁度、流行していた「すーだら節」を口ずさみ不安を解消していた。この年齢となり漸く、「なんとかなったなあー」というのが実感である。あと、10年は元気でこの会を続けたいと思った同期会であった。



上段 石川 佐藤(秀) 澤田 斎藤(毅) 金子 浅倉 尾身  
平野 佐藤(立) 山口

中段 町田 角田 吉本 新田 古藤 田口 松井 大野

下段 斎藤(爾) 和田 斎藤(覺) 野村 藤井夫人 佐藤(正)  
藤井

## 平成27年度北水同窓会 茨城支部同窓会総会

山崎 耿二郎(昭40才)



出席者氏名

写真前列左から

根岸正美(昭50才)、渡辺一夫(昭47才)、遠藤 稔(昭37才)、  
山崎耿二郎(昭40才)、洲脇 操(昭34才)、二平 章(昭48才)

写真後列左から

別井一栄(昭50才)、根本 孝(昭63才)、荒井将人(平5才)、  
東 刚己(平6才)、大川雅登(昭53才)、高島葉二(昭51才)、  
久保田次郎(平2才)、横山耕平(平18生)  
※小松伸行(平5才)は遅れて出席のため写真不掲載 以上15名

北水同窓会茨城支部同窓会平成27年度総会が、  
平成27年11月7日(土)午後4時から、水戸市駅前の  
三の丸ホテルで15名の出席(招請95名)を得て開催  
されました。

総会は、別井一栄(昭50才)の司会、渡辺一夫幹事長(昭47才)の開会あいさつ—趣旨 北水茨城支部同窓会は、昨年支部長の原田和民(昭24教才)が亡くなられ、現在支部長不在の状況にあること、支部総会は、從来不定期で開催してきたが、前回開催から10年とすこし間が空きすぎたこと、支部役員も新たに選出する必要があること等—で開催されました。

議事は、渡辺一夫幹事長の議長で、支部長、副支部長、幹事長、幹事が選出され、その他、次期の開催時期については、毎年開けという声も有りましたが、開催事務も大変なことから2~3年に1度は開催することとして、総会は終了しました。

その後、皆で記念写真を撮影した後、同窓会の本来の目的の懇親会に入りました。

懇親会は、総会と同じく別井一栄新幹事長の司会進行、乾杯は、洲脇 操先輩(昭34才)の元気发声で始まり、その後、出席者全員による自己紹介、仕事の内容、近況報告等があり、それらに耳を傾けながら、飲みながら、なごやかに懇談がおこなわれました。

そして最後は、恒例の「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」を合唱し、水産放浪歌は覚えている人が少なく練習の格好となりましたが、これで次の再会を約して無事閉会となりました。

大笑い、ワイワイガヤガヤ盛り上りました。二次会では、ある者はカラオケ室に籠り、他の者は楽器を片手に音楽談義をしたり、酔いがまわるほどに年齢も忘れ、夜更けるまで楽しい時を過ごしました。朝は恵山温泉の朝風呂に浸り、地元の食材の朝食を楽しみ、2年後の再会を約しながら、それぞれが空港や駅から名残惜しそうに帰途につきました。

なお、札幌本学にはチルコロ・マンドリンニスティコ「アウロラ」というマンドリンクラブがありますが、現水産学部にはクラブがなく、「北水樂友会」は学生の函館での受け皿的な立場で後輩たちのためご奉仕することを考えています。



総会出席者

写真前列(左から):赤間健太郎(昭41増殖)、鷺足将成(昭41才)、  
赤羽光秋(昭39遠漁)、草刈宗晴(昭39才)、桑原茂暢(昭39才)、  
仲谷一宏(昭43才)、守村禎太郎(昭42才)

写真後列(左から):池嶋博之(昭43食)、藤田諭(昭45才)、

三浦 謙(昭42才)、佐々木(山本)達智子(昭42才)、

宮本(表)茂子(昭42才)、源(柳瀬)雅子(昭41才)、

三上 昇(昭50才)、金澤 克(昭40才)、木村 昇(昭40才)

## 大谷清隆先生との想い出の会

大西 広二(平元ギ)

平成27年9月22日(火)17時より、ホテル函館ロイヤルにて、旧海洋学気象学講座卒業生を中心とした、「大谷清隆先生との想い出の会」が開催されました。

平成11年3月に定年退職された大谷清隆先生(海

洋学氣象学講座～物理海洋学講座教授)が、骨休めをされる間もなく、同年9月にお亡くなりになり、早いもので今年十七回忌を迎えました。それを機に、山下和則(昭54才)様が中心となって会の段取りをとり行っていたとき、お近くにお住まいの方で、連絡先の分かる方だけへのお誘いとなっていましたが、連休中日にもかかわらず、世代を超えた17名の方々にお集まりいただきました。

会は代表世話人をお引き受け下さった、山下明則(昭44遠)様のご発声で始まり、世代をまたぐ想い出話に花が咲きました。特に大谷先生が整理されていた研究室の写真アルバム全19冊から、各世代の写真を抜き出してのスライドショーでは、若き日の先輩・同輩・後輩の表情に、尽きない盛り上がりを見せ、予定時間を大きく延長してのお開きとなりました。

大谷先生が在籍された間の講座卒業生・修了生は200名以上に上り、その誰もが研究室で、船や調査の現場で、そして先生のご自宅で多くの想い出をもたれている事と思います。残念ながら今回はご参加いただけなかった方々へ、会の様子をこの紙面をお借りして報告させていただきます。



○集合写真のお名前

1列目左より:志賀直信(昭44才)、磯田豊(特)、村上敬(特)、  
山下明則(昭44遠)、越智雅博(昭51才)、表芳弘(昭52才)

2列目左より:佐藤公美子(元事務員)、西田芳則(昭63才)、  
中多章文(昭62才)、山下和則(昭54才)、竹慶森史(昭54才)、  
上野孝雄(昭53才)、大西広二(平元ギ)、庄内道博(平3才)

3列目左より:北原宏之(平6才)、奥村裕弥(昭63才)、  
光増安弘(昭54才)

**北水同窓会広島県支部会'15 報告**

北辻 さほ(平17海)

平成27年11月8日(日)の午後4時から、北水同窓会広島県支部会15がJR広島駅ビル内のビヤダイニング広島ライオンにて開催されました。

羽原支部長の挨拶および乾杯の音頭で開宴し、時期外れで9月下旬並みの暖かさだったこともあって、一同おおいにビールの杯を重ねました。支部活動についての報告や参加者6名の近況報告の後、(研)水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所の中山奈津子氏(平15海)による講演「広島までの道のりとウイルス研究、そして今後」を聴講しました。ウイルスとは何か、底泥や水中でのウイルスの挙動や分布、赤潮ウイルス研究の展望、はては海と森のつながりまで熱意を込めてお話してください、議論が白熱するとともに赤ワインがあつという間に空になりました。中山氏は海での泳ぎからスタートして山頂まで登るトライアスロンで活躍されていることもあって、まさに「海から山まで」が研究でもプライベートでも一貫したテーマであり、その生き生きとした話しぶりに会の熱気は高まり、大盛況となりました。

次年度も同時期に開催すること、次回の設営と会計担当者、話題提供者(題未定、永井達樹氏(昭48修漁))などを決めて、閉会となりました。



【左から】

永井達樹(昭48修漁)、石田実(昭57ゾ)、羽原浩史(昭55化)、  
北辻さほ(平17海)、中山奈津子(平15海)、森岡泰啓(昭38ゾ)

**寄稿****臥牛会囲碁会の近況報告  
(青春を甦らせる臥牛会 第3報)**

苗村 隆(昭38ギ)

臥牛会(がぎゅうかい)は平成14年4月に昭28~29年卒の諸先輩が設立発足した囲碁同好会です。以来10数年の年月を経て現在も活発に活動を続けています。

現在会員数は13名で、例会は2ヶ月に1回奇数月の第1~2金曜日を行っています。前回親潮286号に投稿して以来10年目となり、会員の中から会の活動を同窓に知って頂き、併せて囲碁に興味のある方、囲碁を趣味としている方に広く参加を呼び掛

けてはどうかとの声があり、今回の投稿となった次第です。

例会は東京都千代田区神田錦町3-23にある学士会館俱楽部室を利用しておおり、そのほか有志により毎月1~2回は練習手合を行っています。また毎年最終11月例会は泊りがけで大会を行います。ここ数年は神奈川県三浦海岸にあるホテル(マローパマインズ三浦)で参加者全員の総当たり戦を行っています。

現在の会員は次のとおりです。

吉田 弘司 二段(昭28セ)  
伊藤 和夫 二段(昭28エ)  
湯浅 稔 初段(昭28ギ)  
小川 法章 二段(昭29ゾ)  
小高 洋 三段(昭29ゾ)

岡川 伸 四段(昭29セ)  
苗村 隆 三段(昭38ギ)  
坂本 浩輔 七段(昭39エ)  
関根 忠雄 二級(昭39ゾ)  
廣瀬 靖則 九段(昭40ゾ)

佐藤 建 六段(昭41セ)  
田中 晃 七段(昭45ギ)  
吉原 正樹 九段(昭46ギ)

以上 13名



食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円～承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD

 株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本 社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939  
釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103  
札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

## 寄稿

例会会場の学士会館は旧帝大系7大学同窓会組織の社団法人学士会本部会館です。現在の建物は1928年(昭和3年)に建て替えられた由緒ある建物で、4階俱楽部室の囲碁施設も上質の碁盤・碁石を備えた本格的な俱楽部室です。

臥牛会の例会会場は発足当初から東京駅八重洲地下街のいづみ囲碁ジャパンで行っていましたが、昨年正月から学士会館に移り順調に推移しています。

学士会館俱楽部室は同会館設立以来100年の歴史をもつ学士会囲碁会(会員数約300名)が管理運営しており、単一大学出身者の同好会が例会として使用するのは初めての事で種々課題もありましたが、会員の小川法章2段(昭29ゾ)の尽力と約半年に渡る時間の経過を経て実現したので、現在は学士会囲碁会と良好な関係を保ち、会員の中には当会と併せて学士会囲碁会に加入する方もおります。



■学士会館全景

例会は市中の碁会所とは異なる落ち着いた環境の中で毎回10名ほどが参加し午前中から夕方5時ころまで存分に対局しています。終了後は徒歩10分ほどのパレスサイドビルの行きつけの居酒屋で反省会を行い、囲碁の話題のほか飲むほどに酔うほどに、青春に還り昔話に花を咲かせています。

例会最終月に行う大会は昨年も11月6~7日に10名が参加してマホロバマイinz三浦で開催、総当

たり戦で42局にのぼる熱戦を繰り広げた結果、7勝2敗の好成績を上げた伊藤和夫二段(昭28エ)が優勝しました。

伊藤二段は年間でも20勝11敗の成績を上げ、最多勝利者賞も獲得してダブル受賞となり、参加者最年長の優勝には日頃からの精進の賜物と一同から盛大な拍手を贈られて大会は無事終了となりました。

最後に設立以来14年目となる臥牛会が今後とも北水出身者の囲碁同好会として広く知られ、興味を持っていただくためにもう少し詳細をお伝えします。

臥牛会に入会し学士会館囲碁施設で対局するための費用は一切掛かりませんが、通信連絡費用ほかで1人3,000円の年会費を徴収しています。また会館俱楽部室を管理する学士会囲碁会(年会費14,000円)に併せて加入する方には当会から学士会囲碁会の会費を一部補助する制度があります。

学士会囲碁会に加入すると同会の各種リーグ戦に参加するほか、年に4回日本棋院の一流女流棋士の指導を受ける事が出来、棋力向上も期待されます。

先に紹介した会員名簿のとおり臥牛会は会員の年齢層も幅が広く、棋力も高段者から級位者まで幅広い層と対戦できるので囲碁に興味のある方はどなたでも楽しく対局することが可能です。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
因みに平成28年の  
例会日程は次のとおりです。

1月 8日(第2 金曜日)
3月11日(第2 月)
5月13日(第2 月)
7月 1日(第1 月)
9月 2日(第1 月)
11月11日(第2 月)大会予定

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



■対局風景

また現在の臥牛会役員構成は次のとおりです。

会長 吉田 弘司(昭28セ) ☎ 046-752-0309

事務局 苗村 隆(昭38ギ) ☎ 047-476-5448

Mail : tnbright@jcom.zaq.ne.jp

ク 吉原 正樹(昭46ギ) ☎ 03-5565-7037

Mail : info@yoshi-hara.co.jp

囲碁を趣味とされている方、都心の上質な囲碁施設でゆっくりと囲碁を楽しみたい方、臥牛会の活動に興味のある方は上記3名のどれにでも結構ですので、ぜひ一度連絡問い合わせを下さるよう心よりお待ちしています。

以上

## 寄稿

## □歓迎! 23年ぶりのおしょろ丸名古屋港入港

山口 晃(昭44エ)

新おしょろ丸V世名古屋港寄港予定の報せをうけて、愛知県支部は、北大伝統の現場主義即ちフィールドワークの象徴としての新装なったおしょろ丸V世の雄姿を広く同窓の目にとめていただくために、第一部入港の集い(愛知県支部主催)、第二部内覧会(おしょろ丸主催)、第三部歓迎会(愛知県支部主催)を計画した。

予定した7月18日はあいにくの荒天により、入港は翌日となり、入港の集いは中止して、歓迎会を予定どおり、午後6時より東山ガーデンで開催した。

歓迎会の出席者は22名。内訳は函館事業部船舶担当2名、おしょろ丸より2名、大阪支部1名、静岡支部1名、工学部1名、愛知県支部15名。梶原一航と星二航はおしょろ丸に先立って急きよ陸路新幹線で駆けつけていただいた。梶原一航によれば、最近のおしょろ丸の運用は昔と異なり、頻度が増し、時間

の余裕が無く、名古屋港寄港も今回が最後かもしれない。星二航によるプレゼンテーションでは、この船は優れもので、今年のシップ オブ ザ イヤーに選ばれ、うまく設計され、種々の工夫がされた魅力的な船であることが理解できた。

翌7月19日10時、おしょろ丸ガーデン埠頭着岸。間もなく内覧会開催。参加者は老若男女赤ちゃんも含めて80名。今回の寄港が実現したのは、高木船長によれば、23年前の寄港時の大歓迎に応えたものであった。

愛知県支部は23年前の勢いではなく、昨年の支部総会の出席者は10人余りであった。おしょろ丸の寄港を機に、若手が顔を向けてくれるようにと、今年は談話会、春の歴史散歩会(桶狭間古戦場めぐり)秋の収穫祭(土いじり)などを計画している。さらに女子会などもあるとよい。

## おしょろ丸V世歓迎会出席者名簿 東山ガーデン

阿部 洋行	北大理函館キャンパス事業部 係長
小林 由宣	函館キャンパス事業部 船舶担当
梶原 善之(昭53ギ)	S55特設専攻科修了 次席一等航海士
星 直樹(平11ギ)	H12特設専攻科修了 主席二等航海士

深谷 獻(昭36セ)	愛知県支部	堀場 宏昌(昭47ギ)	愛知県支部
荒井 城一(昭37ゾ)	愛知県支部	田中 文夫(昭50食)	大阪支部長
川西 義隆(昭37セ)	愛知県支部	田中 和裕(昭51工、修士、精密)	
内田 圭司(昭37ギ)	愛知県支部	村越 孝(昭53ギ)	静岡県支部
三栗 茂(昭39ギ)	愛知県支部	神保 重孝(昭54ギ)	愛知県幹事長
近藤 忠実(昭40ギ)	愛知県支部	三輪 喜之(昭59ゾ)	愛知県支部
金崎 英勝(昭41セ)	愛知県支部	三輪 佳子(昭59ゾ)	愛知県支部
藤井 洋治(昭42ギ)	愛知県支部	宮本 淳史(昭60ギ)	愛知県支部
山口 晃(昭44遠漁)	愛知県支部長	伊藤 浩(昭62化)	愛知県副幹事長

## □学位取得者

## 【平成27年9月取得】

取 得 者	論文題目
張 曜	Studies on the properties of sturgeon collagen as potential biomaterials (チョウザメコラーゲンに関する研究—生物材料への応用の可能性)
武田 忠明	養殖環境の変動によるホタテガイのへい死予測に関する研究
蓮平 裕次	Studies on mechanisms of production and accumulation of dual vitellogenins in salmonid species (サケ科魚類の2型ビテロジェニン合成および蓄積機構に関する研究)

## 【平成27年12月取得】

取 得 者	論文題目
堀本 高矩	キタオットセイのロシア繁殖群における非繁殖期の分布と摂餌生態
仲村 康秀	Studies on phylogeny and ecology of phaeodarians (フェオダリア類の系統分類と生態に関する研究)
王 娜	Biochemical and molecular biological study of major yolk proteins (MYPs) in sea urchin (ウニの主要卵黄タンパク質MYPsに関する生化学および分子生物学的研究)

## □会員の異動

## ○平成27年3月1日付 採用

CHITTENDEN ANTHONY ROBERT 水産科学研究院助教に採用

## ○平成27年10月1日付 採用

宇治 俊樹 水産科学研究院助教に採用  
野村 大樹 水産科学研究院助教に採用

## 会員死亡通知

高橋 裕哉(特別会員)	平成27年 8月 9日	ご家族様より
宮田 興(昭15才)	平成27年 4月 9日	ご家族様より
渡辺 安夫(昭17才)	平成27年12月13日	ご家族様より
小野 吉三(昭18才)	平成27年 8月23日	ご家族様より
濱田 啓吉(昭19才)	平成28年 1月 5日	学内より
小笠原 敏雄(昭22才)	平成27年 9月19日	市川 渡(昭22才)様より
北川 晴男(昭22才)	平成27年11月14日	市川 渡(昭22才)様より
木村 雄一(昭22才)	平成27年 3月15日	市川 渡(昭22才)様より
井上 専治(昭23才)	平成26年10月 9日	ご家族様より
岡本 尚久(昭23才)	平成27年 8月11日	ご家族様より
崎島十四夫(昭23才)	平成26年 9月20日	小島伊織(昭23才)様より
高田 信夫(昭23才)	平成27年12月 6日	井部 勉(昭23才)様より
生田 博司(昭23才)	平成24年 9月15日	元勤務先より
小松 公男(昭24才)	平成27年 8月28日	土田健治(昭35才)様より
中林 重賢(昭24才)	平成27年 3月30日	ご家族様より
吉岡 博(昭24才)	平成27年11月16日	菊池良兵(昭22才)様より (alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp) のみ受け付ける。写真は入れられない。
豊田 洋二(昭24才)	平成27年 2月25日	松森敏昭(昭24才)様より
中村 荣八郎(昭24才)	平成27年12月22日	四方 純(昭43才)様より
中村 仁(昭24才)	平成27年 9月23日	ご家族様より
加藤 隆康(昭25才)	平成26年10月20日	ご家族様より
竹澤 浩(昭25才)	平成28年 1月 9日	安田健治(昭56才)様より
内山 和夫(昭26才)	平成27年 9月30日	ご家族様より
佐藤 勝(昭28才)	平成27年 6月10日	久保邑男(昭28才)様より
本田 泰敏(昭28才)	平成26年	久保邑男(昭28才)様より
上村 力(昭28才)	平成27年 5月 6日	ご家族様より
川端 昭治(昭28才)	平成27年11月 5日	ご家族様より
阿部 彦三(昭29才)	平成27年10月 1日	佐藤 貢(昭29才)様より
川原 浩(昭29才)	不明	伊藤 一(昭29才)様より
西村 吉弘(昭30才)	平成27年	ご家族様より
石村 登(昭32才)	平成27年 7月23日	ご家族様より
西本 勉(昭33才)	平成28年 2月 5日	梶原 潔(昭33才)様より
前田 良也(昭33才)	平成27年11月10日	泉 敏博(昭33才)様より
松見 和幸(昭34才)	平成27年 3月16日	菊地英樹(昭34才)様より
近藤 幸治(昭35才)	平成27年 7月14日	ご家族様より
布目 圭一(昭36才)	4,5年前	北村光二(昭36才)様より
堀 迪彦(昭36才)	平成26年 5月 3日	松井 康(昭36才)様より
佐藤 裕(昭38才)	平成27年10月27日	ご家族様より
奈良 戎男(昭38才)	平成27年 1月	ご家族様より
瀬戸 純(昭41才)	3,4年前	廣瀬清則(昭40才)様より
難波 宏之(昭41才)	3,4年前	廣瀬清則(昭40才)様より
徳田 博正(昭41才)	平成27年 7月25日	ご家族様より
榎原 康雄(昭42才)	平成26年10月	渋谷哲郎(昭42才)様より
滝沢 能男(昭42才)	平成27年 9月 8日	山岸義三郎(昭42才)様より
酒井千鶴子(昭43才)	平成27年12月 7日	ご家族様より
東畑 進(昭43才)	平成27年10月	ご家族様より
堂脇 寿弘(昭45才)	平成27年10月29日	浅野一彦(昭45才)様より
山口 秀一(昭49才)	平成27年10月 6日	学内より
櫻井 謙(平4才)	平成27年 4月23日	学内より

## 親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

### 【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などをついての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール

(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)

のみ受け付ける。写真は入れられない。

### 【編集後記】

平成27年度「親潮」第2号(通算306号)をお届けします。

特集「北水の今」では、平成27年3月に改修された管理研究棟について、その沿革、設備、引っ越しの様子などの紹介とともに掲載いたしました。新しい管理研究棟の記事は、平成27年に採用されたばかりの宇治利樹助教と美野さやか助教に御執筆頂きました。また、高橋は太郎特任教授は、管理研究棟の往時のエピソードをご披露頂きました。皆さまには、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

改修後の管理研究棟は、教育研究活動の活性化と災害対応能力の強化に向け、共用スペースの拡充や非常用設備の整備がなされています。特集記事にもありますように、新しい管理研究棟の写真を北水同窓会のWEBサイトで公開していますので、是非ご覧ください。定期総会や卒業式の写真も公開していますので、併せてお楽しみいただければ幸いです。

平成28年度第1号は通算307号目の親潮になります。原稿の締め切りは平成28年7月8日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)にて受付をしております。支部報告や同期会報告、著書の紹介など、皆様ふるってご投稿ください。詳しくは上覧の親潮投稿規定をご覧ください。

(編集幹事/笠井久会 平12才)

いま豊かな食生活。  
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

# 中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号

鮮魚部 TEL 017(738)1281

冷凍部 TEL 017(738)8221

塩干部 TEL 017(738)5511

加工部 TEL 017(738)6581

企画部 TEL 017(738)1281

管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>

## 海洋土木株式会社

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-11

<http://www.kaiyodoboku.com>

代表取締役 木實谷浩史(54才)

取締役副社長 石井直志(49才)

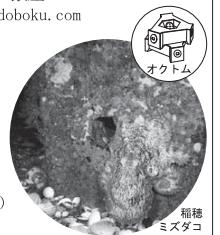
取締役札幌支店長 佐々木洋(53才)

青森営業所長 山口伸治(49才)

北陸営業所長 魚住昭文(52才)

札幌支店部長 村井和明(59才)

技術部部長代理 日和久典(平6才)



福島 ミズダコ

人工魚礁を通じて  
北海道の水産資源の保護・増殖に貢献します



鬼脇 ホッケ

株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉励

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

[水産学部卒業社員] 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL 03-3297-8883 FAX 03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203

TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F

TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A

TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F

TEL 092-401-8828

関連会社 築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)

アメリカ:ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産  
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

# 吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世  
(昭和48年増殖学科卒業)

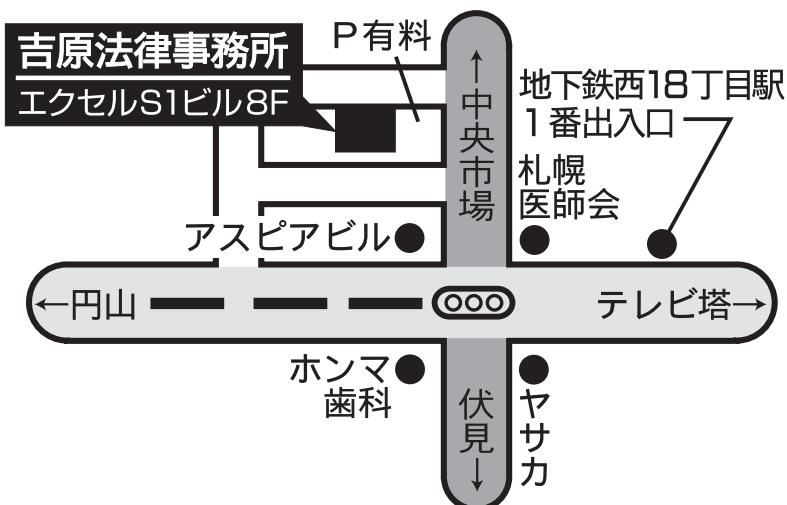
お気軽にお問い合わせ下さい

**TEL 622-7963 FAX 622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) [lawyer@yoshihara-lawoffice.jp](mailto:lawyer@yoshihara-lawoffice.jp)



営業時間においでになれない方はご相談下さい。